授 業 要 項（令和８年度分）

３ 年 生

理学療法学科

授業科目名	リハビリテーション医学	（フリガナ） 担当教官名	馬庭　壮吉・酒井　康生・蓼沼　　拓 高橋　幸男・山本　佳昭
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	リハビリテーションが治療的手段として重要である運動疾患、脳血管障害、神経筋疾患、内部障害、小児疾患、精神疾患について学習する。リハビリテーションの阻害因子や予後を左右する要因を検討するための検査法について学ぶとともに、障害の評価、治療、およびセラピストとしての患者さんへの接し方について学習する。
到達目標	障害の評価及び治療方針を立案することができる。

回数	授業内容	担当
1	脳卒中のリハビリテーション 　脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血の治療および高次脳機能のリハビリテーション	山本佳昭
2-3	神経筋疾患のリハビリテーション 　パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症等の変性疾患とリハビリテーション 　内部疾患のリハビリテーション	酒井康生
4	整形外科疾患のリハビリテーション・関節リウマチのリハビリテーション	馬庭壮吉
5	脊髄損傷、切断のリハビリテーション	蓼沼　拓
6	小児のリハビリテーション	蓼沼　拓
7	精神疾患および認知症のリハビリテーション	高橋幸男
8	がんのリハビリテーション 　乳がん、大腸がん、胃がん、肺がんとリハビリテーション、がん患者の生活機能と生活の質の改善を目標とする医療ケア	蓼沼　拓

アクティブラーニング	
評価基準	期末試験 90%、出席状況 10%
教科書	目でみるリハビリテーション医学（第 2 版）・上田　敏・東京大学出版会 リハビリテーション医学テキスト（改訂第 5 版）・三上真弘、出江紳一（編）　南江堂
参考書	標準整形外科学（第 14 版）　編集・井樋、吉川、津村、田中、高木 現代リハビリテーション医学（改訂第 4 版）・千野直一　　編集・金原出版
実務経験に関する記述	整形外科専門医およびリハビリテーション科専門医、老年精神科専門医、義肢装具適合判定医等の認定を持ち、大学病院等で臨床診療に携る医師が、日々の診療で経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。

授業科目名	チーム医療演習	（フリガナ） 担当教官名	ヤマ モト ケイ コ 山 本 恵 子
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修

科目概要	少子高齢化が進み、医療機能も地域全体で治し、支える「地域完結型」の体制構築への変化を迎えている中で、所属施設内外の専門職種と連携・協働する力は医療専門職として必須である。本科目ではこれまでの多職種連携科目での学びを復習すると共に、他職種やそれおぞれのチームを理解し、他職種間でのコミュニケーション技能を養う。
到達目標	・他職種間におけるコミュニケーションの基本理論を理解し説明できる。 ・他職種の役割やチームの役割を理解することが出来る。 ・他職種に意思を伝え、課題を分析し、解決案作成することができる。

回数	授業内容	担当
1	多職種連携について、コミュニケーション論、チーム医療論、医療コミュニケーション演習での学びについて振り返り、チーム医療論演習の目的、概要について説明する	山本恵子
2	自分を知る	山本恵子
3	相手を知る	山本恵子
4	チームを知る	山本恵子
5	合意形成を体験する	山本恵子
6	PT を知る	山本恵子
7	OT を知る	山本恵子
8	医師を知る	山本恵子
9	看護師を知る	山本恵子
10	チーム（医療）を知る	山本恵子
11	チーム（福祉）を知る	山本恵子
12	発表資料作成	山本恵子
13	発表資料作成	山本恵子
14	発表	山本恵子
15	まとめ	山本恵子

アクティブラーニング	チーム医療について、PT/OT の役割、他職種の役割、チームの機能と役割の実際を知り、チーム医療の一員となる自らの行動についてディスカッションを行い、まとめて発表する。実際にチームを作り、学習を通してチームがどう成熟していくかを体験する。
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価　100％
教科書	適宜紹介
参考書	内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社） 水本清久ほか（編著）;『インタープロフェッショナル・ヘルスケア 実践チーム医療論　実際と教育プログラム』（医歯薬出版） 福原麻希（著）:『チーム医療を成功させる 10 か条』（中山書店） 落合和徳ほか（著）:『チームステップス日本版医療安全』（メジカルビュー社）
実務経験に関する記述	急性期・回復期・維持期を担う病院で 20 年の臨床経験を持ち、回復期病棟の立ち上げから管理職として多職種連携チームの発足に携わった教員がコーチングの視点から多職種連携によるチーム医療について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。

授業科目名	装具学		（フリガナ） 担当教官名	石倉英樹（イシクラ ヒデキ）			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	装具の種類と基本的機構について学習する。 各疾患の病態・障害に対する装具治療について学習する。						
到達目標	臨床で使用されている装具について理解する。 各疾患に対して適切な装具療法を検討することができるようになる。						

回数	授業内容	担当
1	装具学概論 ・装具の概要	石倉英樹
2	下肢の装具療法 ・下肢装具の部品とその機能	石倉英樹
3	下肢の装具療法 ・短下肢装具	石倉英樹
4	下肢の装具療法 ・長下肢装具、股装具、膝装具	石倉英樹
5	下肢の装具療法 ・靴型装具	石倉英樹
6	下肢の装具療法 ・下肢装具のチェックアウト	石倉英樹
7	下肢の装具療法 ・下肢装具のチェックアウト演習	石倉英樹
8	体幹の装具療法 ・体幹装具、側弯装具	石倉英樹
9	上肢の装具療法 ・上肢装具、自助具	石倉英樹
10	疾患に対する装具療法 ・脳卒中片麻痺	石倉英樹
11	疾患に対する装具療法 ・整形外科疾患	石倉英樹
12	疾患に対する装具療法 ・関節リウマチ	石倉英樹
13	疾患に対する装具療法 ・小児疾患	石倉英樹
14	疾患に対する装具療法 ・脊髄損傷	石倉英樹
15	疾患に対する装具療法、講義総括 ・装具療法臨床場面における実際	石倉英樹

アクティブラーニング	各疾患に装具療法に関する演習を行い、臨床場面に即した装具療法の実際について理解を深める。
評価基準	期末試験 100% * ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。
教科書	15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト　装具学　第2版　総編集　石川朗　中山書店 義肢装具のチェックポイント（第 9 版）医学書院
参考書	義肢・装具学（羊土社） リハビリテーション義肢装具学（メジカルビュー社）
実務経験に関する記述	病院や施設、支援学校での理学療法士としての臨床に従事した教員が、装具療法に関する経験をもとに講義を行う。

授業科目名	研究方法論Ⅲ（実施と発表）	（フリガナ）担当教官名	総括　苅田哲也（カリタ テツヤ） 他　PT 学科全教員
開講学期	通年		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	60 2	授業形態	演習	必修･選択の別	必修

科目概要	研究方法論Ⅱで作成した研究計画書に基づき、調査、実験等を行う。実験で得られた結果を考察し、卒業論文を作成する。学生はこれらの経験を通じて、理学療法学と関連分野における基礎的かつ実践的な研究能力を身に着ける。
到達目標	・担当教員の指導のもと、研究計画の実施と修正ができる。 ・適切な統計手法を用いてデータを分析することができる。 ・得られた結果を適切に解釈し、先行研究等の知見を基に考察を作成できる。 ・学術的用語を用い、かつ論文の体裁に準拠した卒業論文を作成できる。

回数	授業内容	担当
1～5	研究計画に沿って調査、実験を行う。 教員はグループに対して指導・助言を行う。	PT学科教員
5～15	調査・実験を行う。 教員はグループに対して指導・助言を行う。	PT学科教員
16～18	実験と調査で得られた結果のデータの解析を行う。 教員はグループに対して指導・助言を行う。	PT学科教員
19～26	卒業論文を執筆する。 教員はグループに対して指導・助言を行う。	PT学科教員
27～28	卒業論文を発表するためのパワーポイントを作成する。 教員はグループに対して指導・助言を行う。	PT学科教員
29～30	卒業論文発表	PT学科教員

アクティブラーニング	AL のうちグループワーク、調査学習、PBL を用いて、卒業論文の作成を行う。 また、完成した内容をプレゼンテーションする。
評価基準	取り組み姿勢、態度：20%、卒業論文の内容：80% ※期日までに卒業論文の提出がなかった場合は単位を認めない。
教科書	適時プリントを配布する。
参考書	なし
実務経験に関する記述	

授業科目名	理学療法マネジメント論Ⅰ		（フリガナ） 担当教官名	鈴木　哲（スズキ　テツ）			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修
科目概要	病院や介護事業所等において組織が活動していくには、いかにして経営資源（ヒト･モノ･カネ・時間・情報）を有効活用していくのかが重要である。本講義では、医療人および組織人として働くために、組織資源を有効活用するための基礎的知識および視点を習得する。						
到達目標	・マネジメントの基本（業務・人・管理・改革）について説明できる ・マネジメントの知識を実際の現場（学校生活・病院・介護事業所等）に応用して考えることができる。						

回数	授業内容	担当
1～2	総論：マネジメントとは・PDCA サイクル・マネジメントの変遷（①業務②人③管理④改革）	鈴木　哲
3	各論：①業務面への取り組み～組織を活かす～ 組織とは・ビジョンとミッション・目標設定と計画立案	鈴木　哲
4	演習：業務面への取り組みに関するグループワーク	鈴木　哲
5	各論：②人の面への取り組み～人の主体性を活かす～ 動機づけ・能力育成・介入方法（ティーチング・コーチング）	鈴木　哲
6	演習：人の面への取り組みに関するグループワーク	鈴木　哲
7~8	理学療法マネジメントⅠまとめ	鈴木　哲

アクティブラーニング	「マネジメント」についてグループワークを用い、組織運営や課題解決について、事例を通じてディスカッションや発表を行う。
評価基準	出席日数・授業態度 20%　レポート課題 80% ※総授業回数の 3 分の 1 以上の欠席を未修とする。
教科書	教材を適宜配布する。
参考書	マネジメントの基本教科書・日本能率協会マネジメントセンター・2020
実務経験に関する記述	組織マネジメント管理を行っている教員が実例を示しながら講義を行う。

授業科目名	理学療法マネジメント論Ⅱ		（フリガナ） 担当教官名	鈴木　哲（スズキ　テツ）			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修
科目概要	病院や介護事業所等において組織が活動していくには、いかにして経営資源（ヒト･モノ･カネ・時間・情報）を有効活用していくのかが重要である。本講義では、医療人および組織人として働くために、組織資源を有効活用するための基礎的知識および視点を習得する。						
到達目標	・マネジメントの基本（業務・人・管理・改革）について説明できる ・マネジメントの知識を実際の現場（学校生活・病院・介護事業所等）に応用して考えることができる。						

回数	授業内容	担当
1～2	各論：③管理～メンタルヘルスの観点から～ 健康経営とこれからのメンタルヘルス対策	鈴木　哲
3	演習：管理に関するグループワーク	鈴木　哲
4	各論：④改革～リーダーシップの観点から～ リーダーシップとは・リーダーとフォロワーの関係・リーダーシップ理論	鈴木　哲
5	演習：リーダーシップに関するグループワーク	鈴木　哲
6	その他：財務諸表の見方（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書）	鈴木　哲
7~8	理学療法マネジメントⅡまとめ	鈴木　哲

アクティブラーニング	「マネジメント」についてグループワークを用い、組織運営や課題解決について、事例を通じてディスカッションや発表を行う。
評価基準	出席日数・授業態度 20%　レポート課題 80% ※総授業回数の 3 分の 1 以上の欠席を未修とする。
教科書	教材を適宜配布する。
参考書	マネジメントの基本教科書・日本能率協会マネジメントセンター・2020
実務経験に関する記述	組織マネジメント管理を行っている教員が実例を示しながら講義を行う。

授業科目名	画像評価学	（フリガナ） 担当教官名	ホリ エ タカ フミ 堀 江 貴 文
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	理学療法対象疾患である中枢神経疾患、神経筋疾患、運動器疾患、呼吸器疾患の画像所見によりその病態や症状を予想・判断することが可能である。そのため画像所見は患者の理学療法評価の選択・治療プログラム立案する上で有用な情報となる。本科目ではこれらの疾患に対する画像診断装置 (エックス線、MRI、CT、血管造影映像) 読影技術を学び、障害部位から予想される病態・症状を関連づけ、予後予測を行い、理学療法評価を選択する能力を養う。
到達目標	・各疾患における画像診断の意義・重要性について説明できる。 ・運動器疾患画像の読影法と障害部位から予想される病態・症状を説明することができる。 ・運動器疾患画像から病態・症状を予測し、理学療法評価を抽出させる。 ・脳血管疾患画像の読影法と障害部位から予想される病態・症状を説明することができる。 ・脳血管疾患画像から病態・症状を予測し、理学療法評価を抽出させる。 ・循環器疾患画像 (CT 撮影、MRI 撮影) の読影法と障害部位から予想される病態・症状を説明することができる。 ・循環器疾患画像 (CT 撮影・MRI 撮影) から病態・症状を予測し、理学療法評価を 抽出させる。 ・運動器疾患画像 (CT 撮影・MRI 撮影) の読影法と障害部位から予想される病態・症状を説明することができる。 ・運動器疾患画像 (CT 撮影・MRI 撮影) から病態・症状を予測し、理学療法評価を抽出させる。

回数	授業内容	担当
1	画像評価の意義	堀江貴文
2	脊髄、脊椎疾患画像（CT 撮影・MRI 撮影）の読影法	堀江貴文
3	骨関節変性疾患（単純エックス線撮影、CT 撮影、MRI 撮影）の読影法	堀江貴文
4	靱帯断裂、腱断裂、骨折 (MRI 撮影、単純エックス線撮影）の読影法	堀江貴文
5	脳血管疾患（CT 撮影、MRI 撮影、血管造影映像）の読影法	堀江貴文
6	循環器疾患（CT 撮影、MRI 撮影）の読影法	堀江貴文
7	呼吸器疾患（CT 撮影、単純エックス線撮影）の読影法	堀江貴文
8	画像症例の提示 グループディスカッション	堀江貴文

アクティブラーニング	各疾患の基本的な病態・症状については予習しておくこととする。 画像症例を用いてグループディスカッションにて予想される病態・症状から予後予測を行い、理学療法評価を選択し、発表する。
評価基準	期末試験 70%、グループワークの取り組み姿勢 20%、出席日数 10%にて評価する。 期末試験においては 100 点満点中 60 点以上を合格とし、60 点未満は再試験を受験することが出来る。 総合計の 60%以上を単位認定とする。
教科書	中島雅美、中島喜代彦編「PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方」医歯薬出版 第 4 版 石蔵礼一監修 野崎園子、安藤久美子編著「一目でわかる脳の MRI 正常解剖と機能」秀潤社 2015 年
参考書	PTOTST 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価 (医学書院) リハで読むべき運動器画像（メジカルビュー社）
実務経験に関する記述	総合病院において、7 年間専任理学療法士として従事し、回復期病棟、医療療養病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、画像評価学の基礎から、障害部位から予想される病態・症状を具体的な事例から実践的に学ばせる。

授業科目名	臨床理学療法評価学Ⅰ		（フリガナ） 担当教官名	理学療法学科教員			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	本科目は、各種疾患に対する評価・測定とそれに基づく理学療法計画についての模擬演習を行う。指導教員のアドバイスを得ながら、臨床思考に基づき、分析および治療アプローチの実践を学び、問題解決思考を身に付ける。						
到達目標	・模擬患者から捉えられる事象や基本的情報を統合解釈し、問題点を抽出整理することができる。 ・予後予測を立て、具体的なゴールを設定することができる。 ・ゴールに向けた、効果的なアプローチを立案し、どのような結果が得られるのかを考えることができる。 ・発表に向けてレジュメを作成し、傍聴者に対して分かりやすくプレゼンテーションができる。						

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション 具体的な演習の説明と前半の症例提示	理学療法学科教員
2~5	グループ毎に担当教員を配置し、担当教員の指導を受けながら演習に取り組む。 ペーパーペイシェントを提示する。 提示された情報をもとに、動作分析、統合と解釈、問題点の抽出と整理、予後予測、ゴール設定を行う。	理学療法学科教員
6~7	発表、フィードバック	理学療法学科教員
8	オリエンテーション 後半の症例提示	理学療法学科教員
9~12	前半と同様の形式にて取り組む。 後半は、理学療法プログラムの立案、考察までを行う。	理学療法学科教員
13~14	発表、フィードバック	理学療法学科教員
15	総括　振り返り	理学療法学科教員

アクティブラーニング	グループに分かれ PBL を用いて、疾患および障がいに対する理解と治療アプローチを学修し、知識および問題解決思考を身に付ける。
評価基準	取組み態度 40%、レポート 40%、発表内容 20%にて判定する
教科書	ペーパーペイシェントの情報を提示する。
参考書	適宜、資料を配布する。
実務経験に関する記述	総合病院や施設において、専任理学療法士として従事し、身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、理学療法の臨床過程を具体的に提示し、実践教育を行う。

授業科目名	臨床理学療法評価学Ⅱ	（フリガナ） 担当教官名	理学療法学科教員
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修･選択の別	必修

科目概要	模擬患者に対して医療面接や検査測定を行い、臨床実習において必要な技術・技能を修得することを目的とする。理学療法学科専任教員が模擬患者、臨床実習指導者の役割を演じ、学生が問診、面接、基本的評価技術及び基本的な移動動作介助技術を様々な疾患別対象者の状態に応じて実技を行う。これによって理学療法評価に必要な接遇、対人コミュニケーション、患者様の病態の把握から理学療法評価プログラムの選択に至るプロセスを学び、優れた対応力や臨床能力を身につける。
到達目標	・模擬患者に対し適切なコミュニケーションを図り、問診、面接を行うことができる。 ・模擬患者の状態に応じて適切な理学療法評価プログラムを立案できる。 ・模擬患者への病態説明、理学療法評価の目的･方法の説明（インフォームドコンセント）ができる。 ・様々な状態の模擬患者に応じて、基本的理学療法評価および基本的な移動動作介助が実施できる。

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション 授業の概要と目的、内容、到達目標を理解する。	理学療法学科教員
2~3	医療面接とバイタルサイン測定の臨床技能 対象者の医療情報を的確に捉えるためのコミュニケーション手法や面接手法を習得する。加えて、血圧測定と脈拍測定の測定技術を習得する。	理学療法学科教員
4~5	動作介助の臨床技能 寝返り動作、起き上がり動作、座位保持、立位保持、立ち上がり動作、移乗動作等の起居動作介助の介助技術を習得する。	理学療法学科教員
6~7	脳血管疾患の臨床技能 脳血管疾患の模擬患者を対象に、疾患特有の病態、コミュニケーション技法、療法士面接、リスク管理、理学療法評価技術及び移動動作介助技術を習得する。	理学療法学科教員
8~9	神経筋疾患の臨床技能 神経筋疾患の模擬患者を対象に、疾患特有の病態、コミュニケーション技法、療法士面接、リスク管理、理学療法評価技術及び移動動作介助技術を習得する。	理学療法学科教員
10~11	整形外科疾患の臨床技能 神経筋疾患の模擬患者を対象に、疾患特有の病態、コミュニケーション技法、療法士面接、リスク管理、理学療法評価技術及び移動動作介助技術を習得する。	理学療法学科教員
12~14	実技発表 専任教員や学生間で、模擬患者および臨床実習指導者を演じ、模擬患者に対し、問診や面接の結果を踏まえた病態解釈と評価項目の立案に関する発表を行う。	理学療法学科教員
15	総括 実技発表に対する総括とフィードバック	理学療法学科教員

アクティブラーニング	グループに分かれ PBL を用いて、疾患および障がいに対する理解と治療アプローチを学修し、知識および技術を身に付ける。
評価基準	実技試験（80%）と参加の姿勢・態度（20%）にて評価する。 ※実技試験は、授業の後、客観的臨床能力試験を行い、理学療法の検査・測定に関する能力と、理学療法評価に必要な接遇、対人コミュニケーションを総合的に評価する。
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	松澤　正　理学療法評価学　改訂第５版　金原出版株式会社 才藤栄一　PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編　金原出版株式会社
実務経験に関する記述	総合病院や施設において、専任理学療法士として従事し、身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、理学療法の臨床過程を具体的に提示し、実践教育を行う。

授業科目名	日常生活活動Ⅱ	（フリガナ） 担当教官名	苅田哲也・山﨑健治 神田一路
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修･選択の別	必修

科目概要	本授業では、ICF の枠組みを用いて ADL・IADL を再整理し、評価から指導・支援へつなげる思考過程と実践力を身につける。さらに、整形疾患・脳血管疾患・脊髄損傷といった代表的な臨床場面を想定し、疾患特性（障害像・リスク・環境要因）を踏まえた ADL・IADL 指導（安全管理、代償手段、環境調整、多職種連携の視点）を検討・実施する。最後に、自助具の作成を通じて具体的に解決する方法を学び、根拠と工夫点を言語化して発表する。
到達目標	・ICF に基づいて対象者情報を整理し、ADL/IADL 上の課題を説明できる。 ・ADL と IADL の違いを理解し、生活場面に即して具体例を挙げて説明できる。 ・ADL 評価（観察・聴取）の基本手順を理解し、主要な評価項目を口頭で説明できる。 ・整形疾患に対して、安全で現実的な ADL/IADL 指導（動作方法・代償・環境調整）を提案できる。 ・脳血管疾患に対して、リスク管理（転倒、誤嚥等）を含む指導を計画・説明できる。 ・脊髄損傷に対して、自立度向上に向けた ADL/IADL 指導を提案できる。 ・生活上の困難に対して適切な自助具を構想・作成し、目的、適応、使用方法、注意点、工夫点を根拠とともに説明・発表できる。

回数	授業内容	担当
1 2	ICF、ADL、IADL の再学習	苅田哲也
3 4	ADL 評価の口頭試問	苅田哲也
5 6	整形疾患に対する ADL・IADL 指導	山﨑健治
7 8 9	脳血管疾患に対する ADL・IADL 指導	神田一路
10 11 12 13	脊髄損傷患者に対する ADL・IADL 指導	山﨑健治
14	自助具の作成（説明）	苅田哲也
15	自助具の作成（発表）	苅田哲也

アクティブラーニング	ICF、ADL、IADL の再学習を行ったうえで、ADL 評価については口頭試問を通して、評価項目の目的・観察ポイント・解釈を説明できるようにする。続いて、整形疾患・脳血管疾患・脊髄損傷の各領域についてペーパーペーシェントを提示し、ADL・IADL 指導を立案する。生活上の課題に対する自助具を作成し、目的・適応・使用方法・注意点を説明して発表する。
評価基準	筆記試験（70%）、演習（30%）にて評価し、100%中 60%以上を単位認定する。 ※筆記試験に合格しない場合、演習には参加できないものとする。 ※総授業回数の 3 分の 1 以上の欠席を未修とする。
教科書	日常生活活動学テキスト 改訂第 3 版 細田多穂 南江堂 脳卒中の機能評価 SIAS と FIM［基礎編］千野直一 金原出版
参考書	適宜配布する
実務経験に関する記述	

授業科目名	整形外科系治療学	（フリガナ）担当教官名	長谷川（ハセガワ） 哲（テツ） 也（ヤ）・山（ヤマ） 崎（サキ） 健（ケン） 治（ジ） 堀（ホリ） 江（エ） 貴（タカ） 文（フミ）
開講学期	前期・後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	90 3	授業形態	演習	必修・選択の別	必修

科目概要	整形外科疾患に対する理学療法を実施するために、病態、障害の回復過程について理解する。また、理学療法評価、治療技術、リスク管理、予防について、演習を通して学習する。
到達目標	・整形外科疾患の病態、障害の回復過程について説明することができる。 ・必要な理学療法評価の項目を列挙することができる。 ・理学療法評価の実施方法を理解し、健常者（学生）に対して実施することができる。 ・教科書の範囲で、理学療法治療方法を列挙することができる。 ・理学療法治療方法を理解し、健常者（学生）に対して実施することができる。 ・教員の指導のもと模擬患者に対して、理学療法治療計画を立案することができる。

回数	授業内容	担当
1~10	骨折 ①総論：骨折の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：上肢の骨折に対する理学療法評価、運動療法理論 下肢の骨折に対する理学療法評価、運動療法理論 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案	山﨑健治
11~15	脱臼 ①総論：脱臼の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：上肢の骨折に対する理学療法評価、運動療法理論 下肢の骨折に対する理学療法評価、運動療法理論	堀江貴文
16~20	変形性関節症 ①総論：変形性関節症の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：変形性股関節症に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 変形性膝関節症に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案	長谷川哲也 山﨑健治
21~25	関節リウマチ ①総論：関節リウマチの病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：関節リウマチに対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案	堀江貴文
26~30	腰部疾患 ①総論：腰部疾患の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：腰部疾患に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案	山﨑健治
31~33	末梢神経障害 ①総論：末梢神経障害の病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：末梢神経障害に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導	山﨑健治
34~37	脊髄損傷 ①総論：脊髄損傷の病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：脊髄損傷に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案	山﨑健治
38~41	肩関節疾患 ①総論：肩関節疾患の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：肩関節疾患に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導	山﨑健治
42~45	スポーツ障害・外傷 ①総論：スポーツ障害・外傷の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：膝靭帯損傷、半月板損傷に対する理学療法評価、運動療法理論 捻挫と肉離れに対する理学療法評価、運動療法理論	山﨑健治

アクティブラーニング	模擬症例課題に対して、AL のうちグループワーク、調査学習、PBL を用いて、思考図と文章の作成を行う。また、完成した内容をプレゼンテーションする。
評価基準	100％中、中間および期末試験を 80％、課題レポート 10％、授業態度 10％にて評価し、100％中 60％以上を単位認定する。 ※総授業回数の 3 分の 1 以上の欠席を未修とする。
教科書	理学療法テキスト　運動器障害　理学療法学Ⅰ　第 2 版：中山書店 理学療法テキスト　運動器障害　理学療法学Ⅱ　第 2 版：中山書店 標準整形外科学　第 16 版：医学書院
参考書	運動療法学　第 2 版：文光堂 筋骨格系のキネシオロジー　第 3 版：医歯薬出版株式会社
実務経験に関する記述	整形外科学病院において、5 年間専任理学療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟、医療療養病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、整形外科的疾患の急性期および回復期から在宅復帰までの治療介入過程やリスク管理について具体的な事例を提示し、実技を含めた実践的教育を行う。

授業科目名	神経内科系治療学	（フリガナ） 担当教官名	カンダ イチロ・ササキ ショウタ 神田一路・佐々木翔太
開講学期	通年		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	90 3	授業形態	演習	必修・選択の別	必修

科目概要	脳血管疾患やパーキンソン病などの中枢神経系の変性疾患に対する理学療法評価と理学療法アプローチの基本技術に関して、演習を通じて身につけることを目的とする。各疾患に対するペーパーペイシェントを用いてグループワーク形式で演習を行い、病態から必要な理学療法評価の選択、問題点の抽出と統合と解釈、理学療法プログラムを立案する神経内科系治療における一連のプロセスを学ぶ。
到達目標	・脳血管疾患および神経筋疾患におけるリスク管理の重要性を理解し、適切に説明できる。 ・脳血管疾患および神経筋疾患に対して適切な理学療法評価を選択し、実施することができる。 ・理学療法評価および脳画像情報から予後予測を行うことができる。 ・評価結果から問題点を抽出し、それらを統合・解釈することができる。 ・評価結果と解釈に基づいて、理学療法プログラムを立案することができる。

回数	授業内容	担当
1~2	オリエンテーション、脳の基礎知識（脳の構造や機能機能構造、神経伝導路等）	神田一路
3~5	脳卒中の概要と病態	神田一路
6~7	脳画像と予後予測	神田一路
8~14	脳卒中の理学療法評価	神田一路
15~18	パーキンソン病の病態と理学療法評価	神田一路
19~20	脳卒中後の機能回復理論	神田一路
21~22	脳卒中急性期の理学療法	佐々木翔太
23~28	脳卒中回復期と維持期の理学療法	神田一路
29~32	ペーパーペイシェント～脳卒中に対する理学療法～	神田一路
33~35	パーキンソン病の病態と理学療法	神田一路
36~38	脊髄小脳変性症の病態と理学療法	神田一路
39~41	筋萎縮性側索硬化症の病態と理学療法	神田一路
42~43	脱髄疾患の病態と理学療法	神田一路
44~45	神経難病に対する理学療法の実践	神田一路

アクティブラーニング	各疾患でペーパーペーシェントを提示する。各グループで必要な理学療法評価の選択、問題点の抽出と統合と解釈、理学療法プログラムを立案し発表を行う。
評価基準	期末試験（80%）、課題レポート（20%）にて評価し、100%中60%以上を単位認定する。 ※総授業回数の3分の1以上の欠席を未修とする。
教科書	神経障害理学療法学Ⅰ　第2版　中山書店 神経障害理学療法学Ⅱ　第2版　中山書店
参考書	適宜配布する。
実務経験に関する記述	総合病院において、専任理学療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟、医療療養病棟、特殊疾患病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践する教員が、評価、問題点の抽出と統合と解釈、理学療法プログラムを立案する一連のプロセスを実践をふまえ教育する。

授業科目名	小児科系治療学		（フリガナ） 担当教官名	浅野大喜（アサノ ダイキ）			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	子どもの定型発達の理解から、小児領域の疾患や障がいを理解し、評価や基本的理学療法への展開を学ぶ。						
到達目標	・正常運動発達、姿勢反射の発達概要を理解し、説明することができる。 ・発達障害を障害分類別に理解し、説明することができる。 ・子どもの整形外科疾患・遺伝性疾患を理解し、説明することができる。 ・知的障害、重症心身障害児の定義や臨床像について理解することができる。						

回数	授業内容	担当
1	未熟児・新生児の発達理解	浅野大喜
2	未熟児・新生児の疾患	浅野大喜
3	新生児期のリハビリテーション	浅野大喜
4	小児疾患・病態の理解 1（先天異常・染色体異常など）	浅野大喜
5	小児疾患・病態の理解 2（神経・筋・骨系疾患）	浅野大喜
6	運動発達	浅野大喜
7	認知発達	浅野大喜
8	社会性の発達	浅野大喜
9	発達評価法	浅野大喜
10	リハ対象疾患の理解とアプローチ①　脳性麻痺	浅野大喜
11	リハ対象疾患の理解とアプローチ②　知的障害	浅野大喜
12	リハ対象疾患の理解とアプローチ③　発達障害	浅野大喜
13	リハ対象疾患の理解とアプローチ④　重症心身障害児、呼吸リハ、在宅訪問リハなど	浅野大喜
14	小児リハビリテーションガイドラインの理解	浅野大喜
15	まとめ	浅野大喜

アクティブラーニング	模擬の人形や実際の道具などを用いて、グループ別に訓練の体験、演習などを行う。
評価基準	試験 90% 課題 10% 試験において 60 点未満は再試験を受験することができる。 総得点の 60%以上を単位認定とする。
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト　小児理学療法 藪中良彦、木元稔、坂本仁（編）　メジカルビュー社
参考書	Crosslink リハビリテーションテキスト　人間発達学　メジカルビュー社 子どもの感覚運動機能の発達と支援　メジカルビュー社
実務経験に関する記述	小児リハビリ分野において 20 年以上理学療法士として実務を経験した教員が、臨床で経験した実例を提示しながら実践的教育を行う。

授業科目名	内科系治療学Ⅱ	（フリガナ）担当教官名	スズキ　テツ・カリタ　テツヤ カンダ　イチロ
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	授業形態	演習	必修･選択の別	必修

科目概要	この科目では、内部障害における理学療法を、ケーススタディーを通して臨床思考の視点から学ぶ。対象疾患は循環器疾患、呼吸器疾患、代謝疾患とし、症例情報の整理、病態理解に基づく理学療法評価、治療方針の立案、リスク管理までの一連の臨床推論プロセスを理解することを目的とする。各症例を用いて、何を評価し、どのように考え、どのような理学療法を選択するかを検討し、基礎的な理学療法を安全に実施できる判断力を養う。
到達目標	･循環器疾患、呼吸器疾患、代謝疾患の代表的な病態を、症例情報に基づいて説明できる。 ・症例から必要な理学療法評価項目を抽出し、その目的を臨床的に説明できる。 ・評価結果を統合し、問題点を整理した上で理学療法の治療方針を立案できる。 ・内部障害理学療法におけるリスク因子を把握し、安全管理の視点から介入の可否を判断できる。 ・ケーススタディーを通して、根拠に基づいた理学療法の選択理由を言語化できる。

回数	授業内容	担当
1	ケーススタディー（循環器疾患）	鈴木･苅田･神田
2	ケーススタディー（循環器疾患）	鈴木･苅田･神田
3	ケーススタディー（呼吸器疾患）	鈴木･苅田･神田
4	ケーススタディー（呼吸器疾患）	鈴木･苅田･神田
5	ケーススタディー（代謝疾患）	鈴木･苅田･神田
6	ケーススタディー（代謝疾患）	鈴木･苅田･神田
7	まとめ	鈴木･苅田･神田
8	まとめ	鈴木･苅田･神田

アクティブラーニング	各疾患ごとのフィジカルアセスメントや症例検討等について演習を行う他、評価や治療アプローチについては実習を通じて知識を深めるとともに、技術を修得する。
評価基準	疾患毎のレポート課題で評価する。
教科書	心臓リハビリテーション必携（日本心臓リハビリテーション学会） 内部障害理学療法学　呼吸　第３版（石川朗　編集　中山書店） 内部障害理学療法学　循環・代謝　第３版（石川朗　編集　中山書店）
参考書	病期が見える Vol.2 循環器 (Medic Media) 病理学 疾病のなりたちと回復の促進①（系統看護学講座 専門基礎 医学書院）
実務経験に関する記述	呼吸・循環器・がんに対するリハビリテーションの臨床経験を有する教員が、臨床経験を通じて得た知識や技術を生かし、講義・演習・実習を行う。

授業科目名	スポーツ理学療法演習		（フリガナ） 担当教官名	堀　江　貴　文・川　本　晃　平 蔦　川　和　希・白　築　　香			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修･選択の別	必修

科目概要	スポーツ外傷および障害の基礎知識を理解し、実際にスポーツ選手へのリハビリテーションが実施できることを目標とする。 また一般社団法人キネシオテーピング協会インストラクターによる特別枠講義を設け、講義と実技演習を行う。受講後、希望者はキネシオテーピングトレーナー（CKTT）を取得出来る資格試験を受験することが出来、試験に合格すると資格を取得することが出来る。
到達目標	・アスレティックトレーナーとして活動する理学療法士の意義や役割について理解し説明できる。 ・スポーツ外傷とスポーツ障害について理解し、それらの具体的な病態について説明できる。 ・キネシオテーピングの理論と実践方法を学び、基礎的なキネシオテーピングを円滑に実施することが出来る。

回数	授業内容	担当
1~2	アスレティックトレーナーの活動の実際（1）（講義）	川本晃平
3~4	アスレティックトレーナーの活動の実際（2）（講義）	蔦川和希
5~8	キネシオテーピングの理論と実際(講義・実習) ・キネシオテーピング講義 ・キネシオテーピング実習	白築 香
9~15	スポーツ外傷・障害の概念とそれらに対する理学療法(講義・実技)	堀江貴文

アクティブラーニング	学んだ知識や技術を用いて、模擬患者に対する評価・治療項目の立案をグループワークによって実施する。その後、スポーツ選手に対するメディカルチェックやトレーニングの内容についてさらにグループディスカッションを通じて立案し、グループで実演を踏まえて発表する。
評価基準	筆記試験（90%）、出席点（10%）にて評価し、100%中60%以上を単位認定する。 筆記試験：授業内容の知識の定着を確認する。授業内の分野の講義時間数に応じた配点とする。期末試験においては 100 点満点中 60 点以上を合格とし、60 点未満は再試験を受験することが出来る。 ※総授業回数の 4 分の 1 以上の欠席を未修とする。
教科書	第3版　スポーツ理学療法学（メジカルビュー社）
参考書	適時資料を配布する。
実務経験に関する記述	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有し、スポーツチームのトレーナー帯同を行っている教員と、高度急性期病院や整形外科クリニックで理学療法業務に従事している傍ら、同じくアスレティックトレーナーの資格を有し、トレーナーとして社会人実業団や高校の部活動に介入している理学療法士が、アスレティックトレーナーとしての活動内容や選手やチームに対する指導方法や評価方法等について実演を交えながら教授する。 また、キネシオテーピング協会の認定インストラクターが、キネシオテーピングの理論から実践に至るまで、集中講義にて教授する。

授業科目名	理学療法トピックス		（フリガナ） 担当教官名	総括　山（ヤマ）　崎（サキ）　健（ケン）　治（ジ）			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	30 2	授業形態		必修･選択の別	必修
科目概要	本科目は、理学療法分野および関連分野の先進的な取組みを学ぶ科目であり、視野を広げる総合的学習の機会とする。						
到達目標	理学療法および関連分野における視野を広げることができる。						

回数	授業内容	担当
1 2	ロボット・AI を活用した理学療法について	猪村剛史
3 4	パラスポーツ国際大会におけるトレーナー活動について	増田 拓
5 6	公認スポーツ栄養士×メンタルトレーナーとしての働き方について	田代シマ
7 8	ウィメンズヘルス分野の理学療法	黒崎育美
9 10	理学療法県士会活動について	苅田哲也
11 12	医療従事者が行う感染予防の理論と実際	神田一路
13 14 15	筋膜と理学療法～理論と実践～	山﨑健治

アクティブラーニング	
評価基準	出席状況 50%、授業態度 50%にて評価する
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	適宜資料を配布する。
実務経験に関する記述	

授業科目名	ヘルスプロモーション	（フリガナ） 担当教官名	ヤマ サキ ケン ジ フク タニ サヤカ 山 﨑 健 治・福 谷 早耶香
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修

科目概要	ヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されている。本科目では、我々理学療法士が医療・介護保険分野以外で人々の生活の質、QOL（Quality of Life）を高めるための取り組みについて学ぶ。
到達目標	・ヘルスプロモーションの概念について理解し、説明できる。 ・人々の行動を変容するための社会心理学、行動科学の理論と実際について、説明できる。 ・産業保険分野と学校保健分野において疾病や機能障害に関連する環境要因を挙げ、より良い環境について説明できる。 ・学校保健分野において成長期の小児の健康を増進させ疾病を予防するための方法について理学療法士の視点から立案できる。 ・産業保健分野において労働者の健康を増進させ疾病を予防するための方法について理学療法士の視点から立案できる。

回数	授業内容	担当
1	ヘルスプロモーションの概念	山﨑健治
2	行動を促進するための理論と実践（行動科学と社会心理学の理論と実際）	
3	産業保険分野における疾病、機能障害、環境要因、心理社会的要因	
4	学校保健分野における疾病、機能障害、環境要因、心理社会的要因	
5	学校保健分野の理学療法士の働き方の実際	福谷早耶香
6		
7	ワーク（課題への取り組みと発表） （学校保健分野において成長期の小児の健康を増進させ疾病を予防するための方法について理学療法士の視点から立案する）	山﨑健治
8		
9		
10	ワーク（課題への取り組みと発表） （産業保健分野において労働者の健康を増進させ疾病を予防するための方法について理学療法士の視点から立案する）	
11		
12		
13		
14		
15	まとめ	

アクティブラーニング	PBL を用いたグループワークを行う。
評価基準	課題への取り組みと発表 60%、出席日数 20%、成果物の完成度 20%で判定する。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	適宜資料を配布する。
実務経験に関する記述	急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハビリテーションを提供する総合病院に 4 年間、外来クリニックに 2 年間、理学療法士として従事し、多様な疾患に個別理学療法を実践し、かつ産業保険分野で企業の従業員の疾病予防に携わった教員が指導する。

授業科目名	臨床実習Ⅱ		（フリガナ） 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	135 3	授業形態	実習	必修･選択の別	必修
科目概要	本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて理学療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅰに引き続き、理学療法士の業務について理解を深める。 臨床実習Ⅰの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な検査・測定方法を選択し正確に実施する能力、および検査・測定の結果を専門用語を用いて正確に記録する能力を育成することを目的とする。また､対象者とのラポールを築くため､目的に沿った医療面接の技術を育成する。						
到達目標	臨床実習Ⅰの到達度に加え以下の項目を到達度とする。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目を列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施できる。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者あるいは家族に対して検査・測定に関するオリエンテーションが適切に実施できる。 ・検査・測定結果を専門用語を用いて正確に記録することができる。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な医療面接が実施できる。						

授業内容	担当
臨床実習 時間：120時間（3週間：15日間） 場所：医療提供施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取組む。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目が列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施する。また、検査・測定等に関するオリエンテーションを実施する。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は､40時間（120時間）とし､家庭学習時間を含め45時間以内（135時間）とする。	臨床実習指導者

アクティブラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。
評価基準	総括的評価は学院教員にて実施する。 オリエンテーションへの出席状況や態度、臨床実習中の状況、臨床実習最終状況（評価による評価結果含む)、臨床実習後の提出課題内容、実習報告会の内容を総合的に評価し成績判定する。
教科書	島根リハビリテーション学院　理学療法学科　臨床実習要綱
参考書	
実務経験に関する記述	臨床実習指導者は、5年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。

授業科目名	臨床実習Ⅲ		（フリガナ） 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	135 3	授業形態	実習	必修･選択の別	必修
科目概要	本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて理学療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅱに引き続き、理学療法士の業務について理解を深める。 臨床実習Ⅰ～Ⅱの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、得られた情報収集内容や検査・測定結果間の関連性を整理し統合・解釈し問題点を整理する能力を育成する。加えて、統合・解釈の思考過程を文章化する能力を育成することを目的とする。 さらに、臨床実習Ⅳに向け治療アプローチの立案の過程を経験する。						
到達目標	臨床実習Ⅰ～Ⅱの到達度に加え以下の項目を到達度とする。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を整理し統合・解釈できる。 ・ICIDH あるいは ICF にもとづき問題点を整理できる。 ・統合・解釈の思考課程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。 ・治療アプローチ立案の過程を経験する。						

授業内容	担当
臨床実習 時間：120 時間（3 週間：15 日間） 場所：医療提供施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取組む。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者の課題解決に向け、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を統合し解釈する。問題点を整理し、統合・解釈の思考課程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1 週間の施設実習時間は、40 時間（120 時間）とし、家庭学習時間を含め 45 時間以内（135 時間）とする。	臨床実習指導者

アクティブラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。
評価基準	総括的評価は学院教員にて実施する。 オリエンテーションへの出席状況や態度、臨床実習中の状況、臨床実習最終状況（評価による評価結果含む）、臨床実習後の提出課題内容、実習報告会の内容を総合的に評価し成績判定する。
教科書	島根リハビリテーション学院　理学療法学科　臨床実習要綱
参考書	
実務経験に関する記述	臨床実習指導者は、5 年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。

授業科目名	総合演習Ⅲ		（フリガナ） 担当教官名	苅田哲也（カリタ テツヤ）			
開講学期	通年						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修･選択の別	必修
科目概要	本科目は、国家試験にむけた学習を進める。 専門基礎分野の復習と暗記、専門分野の知識の定着、問題の読解と方略を学ぶことを目標とする。						
到達目標	専門基礎分野では、各分野の到達度を把握し到達度範囲の全てを暗記することができる。 専門分野では、まとめる、理解し説明できる、読解するといった学習方略を身に付けることができる。						

回数	授業内容	担当
1	解剖学（骨関節靭帯）	苅田哲也
2	解剖学（筋起始・停止）	苅田哲也
3	解剖学（脳解剖）、生理学	苅田哲也
4	運動学	苅田哲也
5	精神医学	苅田哲也
6	臨床心理学	苅田哲也
7~8	神経内科学（脳血管疾患の共通・専門）	苅田哲也
9~10	神経内科学（神経筋疾患の共通・専門）	苅田哲也
11~13	整形外科学（共通・専門）	苅田哲也
14~15	評価学	苅田哲也

アクティブラーニング	e-larning 学習と講義を用いて、専門基礎分野と専門分野の理解と暗記を図る。 1.　科目担当教員から事前に分野の講義動画の提示がある。学生は提示された講義動画を聴講し、理解と暗記を図る。その後、学生は分野の問題を解く。 2.　分からなかった問題については、調べ学習を行ったり、学生間で話し合い、理解を深める。加えて、教員の指導の基、さらなる理解を深める。 3.　最後に難易度の異なる問題を解き、分からなかった問題については、上記と同様な方法を用いて理解を深める。
評価基準	ペーパー試験 100％ ※年間 7 回（日程については別途提示する）ある試験のうち 1 回以上、総得点の 4.5 割を超える回があること。試験において、総得点 4.5 割未満は再試験を受験することができる。
教科書	適時資料を配布する。
参考書	国試の達人　運動解剖生理学編　（株）アイペック 国試の達人　臨床医学編　（株）アイペック 国試の達人　理学療法編　（株）アイペック
実務経験に関する記述	